

2026年6月19日

インド・5月インフレ率は前年比+3.93%に加速(Asia Weekly)

～生活必需品のみならず、財・サービスで幅広くインフレ圧力が強まる動き～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/12(金)	(インド)5月消費者物価(前年比)	+3.93%	+4.00%	+3.48%
6/15(月)	(インド)5月輸出(前年比)	+18.0%	--	+13.8%
	5月輸入(前年比)	+20.6%	--	+10.0%
6/16(火)	(中国)5月小売売上高(前年比)	▲0.6%	+0.0%	+0.2%
	5月鉱工業生産(前年比)	+4.5%	+4.3%	+4.1%
	5月固定資産投資(年初来前年比)	▲4.1%	▲2.0%	▲1.6%
	(オーストラリア)金融政策委員会(政策金利)	4.35%	4.35%	4.35%
6/17(水)	(シンガポール)5月非石油輸出(前年比)	+38.4%	+31.3%	+24.4%
6/18(木)	(ニュージーランド)1-3月実質GDP(前年比)	+1.5%	+1.1%	+1.5%
	(フィリピン)金融政策委員会(政策金利)	4.75%	4.75%	4.50%
	(インドネシア)金融政策委員会(政策金利)	6.50%	6.50%	6.25%
	(台湾)金融政策委員会(政策金利)	2.000%	2.000%	2.000%
6/19(金)	(マレーシア)5月消費者物価(前年比)	+2.0%	+2.1%	+1.9%
	5月輸出(前年比)	+45.3%	+30.5%	+36.9%
	5月輸入(前年比)	+14.1%	+16.0%	+20.0%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【インド】～5月インフレ率は前年比+3.93%に加速、幅広く財・サービスにインフレ圧力が強まる動き～

12日に発表された5月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+3.93%となり、前月(同+3.48%)から加速し、2025年1月以来の高い伸びとなった。前月比も+0.75%と、前月(同+0.27%)から上昇ペースが加速している。これは、中東情勢の緊迫化を受けた原油価格の上昇を背景に、ガソリンなどのエネルギー価格が引き上げられたことに加え、高温などの異常気象による作柄への悪影響を受け、生鮮品を中心に食料品価格が上昇するなど、生活必需品を中心とした物価上昇圧力が強まったことが影響している。なお、食料品とエネルギーを除くコアインフレ率は前年同月比+3.90%となり、前月(同+3.70%)から伸びが加速した。前月比も+0.50%と、前月(同+0.35%)から上昇ペースが加速しており、インフレ圧力の高まりが幅広い分野に広がっている。エネルギー

価格の上昇による輸送コストの押し上げに加え、金融市場におけるルピー安の進行に伴う輸入インフレ圧力も重なり、幅広い財価格で上昇ペースが強まっている。また、サービス価格にも上昇の動きがみられており、全般的にインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

15日に発表された5月の輸出額は前年同月比+18.0%となり、前月（同+13.8%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヵ月連続で増加しており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新するなど、持ち直しの動きが続いている。財別では、石油製品関連の輸出に鈍化がみられる一方、機械製品関連や鉱物資源関連のほか、化学製品関連、宝飾品関連、穀物など幅広い分野で輸出の拡大が確認されている。国・地域別では、米国向けや欧州向けが堅調な動きをみせるとともに、中国などアジア新興国向けにも底堅い動きがみられる。また、中東情勢の緊迫化を受けて一時下振れした中東諸国向けにも持ち直しの動きが確認されている。一方、輸入額は前年同月比+20.6%となり、前月（同+10.0%）から伸びが加速した。前月比では2ヵ月ぶりの減少に転じたと試算されるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持しており、底堅い動きが続いている。財別では、原油価格の高止まりを反映して原油輸入額が押し上げられる一方、機械製品関連の輸入には一服感がみられる。また、金をはじめとする宝飾品関連の輸入も下振れしている。その結果、貿易収支は▲282.10億ドルと、前月（▲283.80億ドル）から赤字幅が縮小した。

図1 IN インフレ率の推移



図2 IN 貿易動向の推移

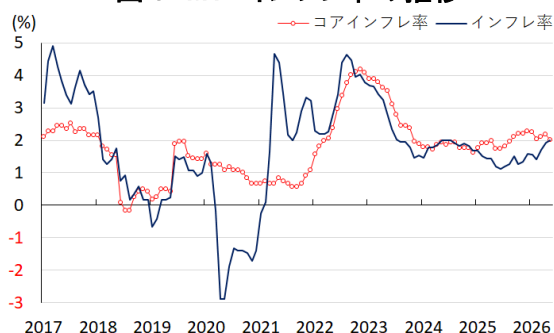


[マレーシア]～生活必需品を中心とする物価上昇により、5月のインフレ率は2年弱ぶりの高い伸びに～

19日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+2.0%となり、前月（同+1.9%）からわずかに加速し、2024年7月以来の高い伸びとなった。ただし、前月比では+0.15%と前月（同+0.37%）から上昇ペースは鈍化している。中東情勢の緊迫化を受けた原油高を背景にエネルギー価格が上昇しているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇しており、生活必需品を中心に物価上昇圧力が強まる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除くコアインフレ率は前年同月比+2.0%となり、前月（同+2.2%）から伸びが鈍化した。前月比も+0.00%と前月（同+0.29%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇にもかかわらず輸送コストの上昇に一服感がみられるほか、リングギ相場が周辺国通貨と比べて安定しており、輸入インフレ圧力も抑制されている。このため、財価格は総じて落ち着いた推移を示している。一部のサービス価格には上昇がみられるものの、その動きは緩やかであり、全体としてインフレ圧力が高まりにくい状況が続いている。

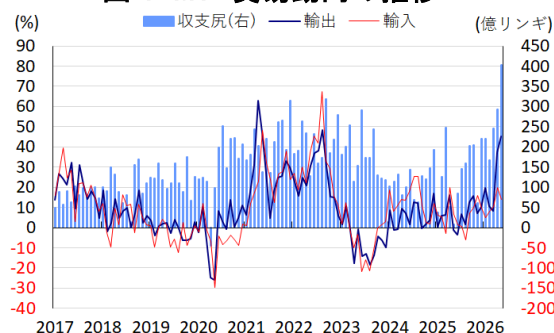
また、同日に発表された5月の輸出額は前年同月比+45.3%となり、前月（同+36.9%）から伸びが加速した。前月比も+0.8%と前月（同+32.2%）に続いて増加しており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新するなど持ち直し基調が続いている。分野別では、中東情勢の緊迫化を受けた原油などの商品市況の高止まりを背景に、鉱業部門の輸出が大幅に増加しているほか、世界的なAI（人工知能）関連投資の拡大を受けて、主力輸出品である半導体など製造業関連の輸出も押し上げられている。一方、農産品関連の輸出は大きく下振れしており、輸出全体の重石となっている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けは拡大ペースに一服感がみられるものの、米国向けやEU向けは引き続き堅調に推移しているほか、アジア新興国向けも底堅さを維持している。一方の輸入額は前年同月比+14.1%となり、前月（同+20.0%）から伸びが鈍化した。前月比も▲11.7%と前月（同+31.8%）から2ヵ月ぶりの減少に転じるなど、一進一退の動きとなっている。種類別では、輸出の堅調さを反映して製造業関連の輸入は底堅く推移しているものの、農産品関連や鉱業部門の輸入は弱含んでいる。その結果、貿易収支は+403.80億リングとなり、前月（+292.26億リング）から黒字幅が拡大した。単月ベースの黒字額としては過去最高を更新している。

図3 MY インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

図4 MY 貿易動向の推移



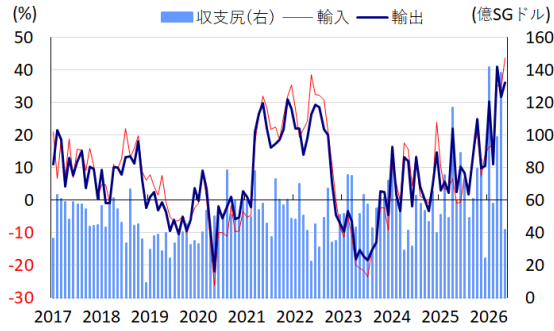
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～中東情勢の緊迫化による原油輸送の混乱が原油関連の輸出入に影響～

17日に発表された5月の非石油輸出額は前年同月比+38.4%となり、前月（同+24.4%）から伸びが加速した。前月比も+7.69%と前月（同+10.95%）に続き4ヵ月連続の増加となっており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、持ち直しの動きが続いている。財別にみると、食料品の輸出額は大きく下振れしたものの、主力輸出品である電気バルブなどの機械製品関連の輸出が堅調に推移したほか、半導体など電子部品関連の輸出も底堅く推移した。また、化学製品関連や医薬品関連の輸出も拡大した。なお、石油を含む総輸出額も前年同月比+36.1%となり、前月（同+31.7%）から伸びが加速した。一方、前月比では▲4.0%と前月（同+6.1%）から3ヵ月ぶりの減少に転じており、持ち直しの動きには一服感がみられる。これは、原油関連輸出の減少が影響したと考えられる。一方、輸入額は前年同月比+43.6%となり、前月（同+34.5%）から伸びが加速した。前月比も+5.6%と前月（同+4.3%）に続き6ヵ月連続の増加となっており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、持ち直しの動きが続いている。財別にみると、中東情勢の緊迫化に伴う原油高にもかかわらず、輸入量の減少が重石となる動きがみられたものの、機械製品関連や化学製品関連の輸入が堅調に推移し、全体を下支えした。その結果、貿易収支は+41.66億SGドルとなり、前月

(+138.43 億SGドル) から黒字幅は大きく縮小した。

図5 SG 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以 上